

宮城県林業普及活動情報

2023. 11月号 No. 186

もくじ

各地の林業普及活動情報

P 2～10

- 「木育」×「食育」プログラム（箸づくり体験）の実施（大河原地方振興事務所）
- 原木しいたけ出荷制限解除に向けた支援（大河原地方振興事務所）
- 秋保ヴィレッジアグリエの森・たいわ産業まつりで原木しいたけPR（仙台地方振興事務所）
- 花が生い茂る戸花山（山元町）を目指して（仙台地方振興事務所）
- 鳴子こけしの材料確保に向けた取組を支援（北部地方振興事務所）
- 小学生を対象とした「おおさき山がっこ」を開催（北部地方振興事務所）
- 花山小学校課外授業への支援（北部地方振興事務所栗原地域事務所）
- 飛沫防止パネル再利用に関する打合せ（北部地方振興事務所栗原地域事務所）
- 山のめぐみマルシェの開催支援（東部地方振興事務所）
- ドローンでの森林計調査への支援（東部地方振興事務所）
- 再造林促進に係る協定植樹式の調整（東部地方振興事務所）
- 木育・木工教室の支援（東部地方振興事務所）
- 効果的な松くい被害対策の実施に関する支援（東部地方振興事務所登米地域事務所）
- 林業体験学習（植林体験）（東部地方振興事務所登米地域事務所）
- 気仙沼市産まつたけ 出荷前検査の実施（気仙沼地方振興事務所）
- スマート林業・森林調査講座（実践・地上レーザ）の開催（林業技術総合センター）
- 令和5年度宮城県林業普及活動・試験研究成果発表会（林業技術総合センター）
- 令和5年度森林・山村多面的機能発揮対策事業安全講習会（林業技術総合センター）

「木育」×「食育」プログラム（箸づくり体験）の実施

大河原地方振興事務所

【1日(水)】

当所地方振興部で行っている「キャリア教育プログラム」内で林業振興部主催となる「木育」×「食育」プログラム「箸づくり体験」を槻木小学校で実施しました。

事前にカンナの使い方や留意点を確認して作成を支援したことから、全員が安全で時間内に余裕を持って箸づくりを終えることが出来ました。

参加した生徒からは「最初は難しかったけれど慣れたら楽しかった。」「家でご飯を食べるときに使いたい。」等の感想をもらいました。

後半は森林教育パネルを活用した森林学習を行いました。



【箸づくり体験の様子】

原木しいたけ出荷制限解除に向けた支援

大河原地方振興事務所

【9日(木), 16日(木)】

新たなロットの出荷制限解除を希望する原木しいたけ生産者に対して、現場管理及び今後の進め方について指導・助言を行うとともに、現地確認や事務支援を行い、手続きを進めました。

また、現在の取組み状況や生産管理等について意見交換を行うことで個別の状況を把握することが出来ました。

引き続き、その他の解除を希望する生産者についても、関係機関と調整しながら、適時適切な出荷制限解除に向けた支援を行います。



【解除予定のロット】

秋保ヴィレッジアグリエの森・たいわ産業まつりで原木しいたけPR

仙台地方振興事務所

【5日(日)】

仙台市産・大和町産の原木しいたけをPRするため、仙台市、大和町それぞれの露地栽培原木しいたけ生産推進協議会と連携し、原木しいたけの植菌体験及び販売会を実施しました。仙台市では秋保ヴィレッジアグリエの森で、大和町ではたいわ産業まつりにて、しいたけ原木への植菌体験を開催したほか、生産者による原木しいたけ直売を実施しました。

老若男女問わず、訪れた方々に原木しいたけ栽培に触れてもらい、安心安全な原木しいたけをPRすることができました。

引き続き、原木しいたけの認知向上を目指す生産者の取り組みを支援していきます。



【植菌体験の様子（たいわ産業まつり）】

花が生い茂る戸花山（山元町）を目指して

仙台地方振興事務所

【30日(木)】

戸花山地区は、東日本大震災による甚大な被害を受けましたが、復興に係る整備を終え、町民をはじめ訪れた皆さんの心の安らぎとなるよう、ツツジをはじめとした花木生い茂る「花の戸花山」を目指しているところです。

具体的には、戸花山つつじ桜サポータークラブが「みんなの森林づくりプロジェクト推進事業」により里山の森林整備活動を行っており、林業普及指導員がプロット設定による施業管理の手法や安全作業について支援を行っています。

サポータークラブの皆さんは、森林整備に初めて関わる方達ばかりでしたが、支援により、安全第一の森林活動を行う団体として、森林資源を守りながら活動を続けられているところです。今後も、活動の輪が更に広がるよう支援していきます。



【戸花山での森林整備活動（低木の除去）】

鳴子こけしの材料確保に向けた取組を支援

北部地方振興事務所

【13日(月)】

鳴子こけしの材料不足解消に向けて、大崎市有林からのミズキ材の調達について支援しました。

伐採されたミズキの丸太を搬出するための人的労力に不足が生じていたことから、その打開策として、大崎市がボランティアを募集したところ、平日にもかかわらず16名の応募がありました。

当日は、約200本の丸太をボランティアが力を合わせて林道脇まで移動させました。

今後も、大崎市等の関係者と連携を図りながら、ミズキ材の継続的な確保に向けて植栽等の取組を含めて支援してまいります。



【作業手順の説明】



【ボランティアによる運搬作業】



【搬出後みんなで記念撮影】

小学生を対象とした「おおさき山がっこ」を開催

北部地方振興事務所

【16日(木)】

今回は2回目の開催となりましたが、去る11月16日(木)、「おおさき山がっこ」登録サポーターとともに、美里町立小牛田小学校を訪れ森林教室を開催しました。

児童は、初夏とは違う森林に触れ、盛り上がりを見せる一方で、一箇所に集まって木の実や昆虫、森の動物たちの説明を聞く時には、真剣な表情で耳を傾けていました。

この体験活動を通じて子ども達が森林への



【森の動物の説明を聞く様子】

関心を深めるきっかけとなることを願っています。



【飛ぶ松の種を観察中】

花山小学校課外授業への支援

北部地方振興事務所栗原地域事務所

【22日(水)】

花山小学校5・6年生を対象とした花山小学校協働教育推進委員会による課外授業への支援を行いました。当日は花山産の丸太を製材している株式会社タカカツ建材の製材工場（加美町）、平成20年岩手・宮城内陸地震の災害を伝える栗駒山麓ジオパークビジターセンターの見学のあと、地震により300m移動した荒砥沢地滑地と、約1kmにわたって崩壊した冷沢崩落地（栗駒地区）を見学するなど、地域の成り立ちや産業を学習しました。

タカカツ建材の製材工場では、10月18日に「花山の林業」として見学した伐採現場の丸太が当日運ばれてきたこともあり、皮むきから製材までの一連の工程に興味深く見学していました。

また、ビジターセンターにおいてジオガイドによる内陸地震の特徴、地滑りのメカニズムなどの説明の後、荒砥沢地滑地と冷沢崩落地へ移動し、まだ生まれていない時に発生した地震の被害、規模の大きさを学習しました。

少子化が進み花山小学校では全校生徒が12名となりましたが、次代を担う小学生に対し地域の伝統・産業・文化等を伝えているボランティア団体の活動を今後も支援していくこととしています。



【タカカツ建材の方にはいっぱい質問をしました】



【冷沢崩落地にてジオガイドから土砂災害の説明を受けました】

飛沫防止パネル再利用に関する打合せ

北部地方振興事務所栗原地域事務所

【28日(火)】

先月、飛沫防止パネルの木枠部分の再利用について、木製品として再利用出来ないか、木材加工業者と製品化について打合せをし、今回、試作品が完成しました。

完成した試作品は、みやぎの苔キャラクターが刻印されたマグネット、写真スタンド、積み木で、飛沫防止パネル9基分から製作し、県主催等でのイベントなどでの活用を検討しています。



【完成した製品の一例：マグネット】

山のめぐみマルシェの開催支援

東部地方振興事務所

【11日(土)】

管内の木工業者のPR等を目的に、道の駅直売所(上品の郷)において販売会を開催しました。今回は期日や会場など限定的な販売会でしたが、木工やジビエなどの事業者6者の出店がありました。販売品は、アクセサリや什器などの定番の木工品のほか、ペット餌台やキャンプ用薪など、昨今のニーズに合わせた商品が販売されるなど、当地域の魅力的な「山の恵み」をPRする機会となり、販売促進につながりました。



【販売会の状況】

ドローンでの森林計調査への支援

東部地方振興事務所

【21日(火)】

女川町の林業等を通じた復興支援を行う企業の取組で、カーボンクレジット創出を行うに当たり、林地の地位把握のため、ドローンによる林分撮影作業が行われ、普及員も町担当とともに立会い、意見交換を行いました。

今回の目的は林分生長量の把握のための、スギ樹高の撮影計測でしたが、今後得られたデータを元にソフト解析など検討を重ね、当町でのクレジット創出に向け、企業側で引き続き作業を進める予定です。



【ドローン調査の準備状況】

再造林促進に係る協定植樹式の調整

東部地方振興事務所

【22日(水)ほか】

令和2年度に締結した県、製材会社及び森林組合の3者による「再造林協定」に基づく植樹式(12月開催予定)の開催に当たり、関係者との調整を行いました。

植栽現地担当の森林組合とともに植樹式の具体的な流れや準備状況を確認するとともに、調整結果を共有しました。また、植樹祭当日には多くの参加者が見込まれるため、現地駐車場(市有地)の手配や会場周辺の住民へも事前説明を行いました。



【植樹活動地の状況】

木育・木工教室の支援

東部地方振興事務所

【21日(火), 24日(水)】

管内2小学校(渡波小、稲井小)での親子木工教室の開催を支援しました(流域森林・林業活性化センター主催)。作業前には普及員から、児童に身近なワード(「空気」、「水」、「動物」、「机」、「椅子」など)により、森林の存在や木材利用の大切さを解説しました。また、木工作ではダッシュボックスを製作し、作業は部材に釘を打ち込むことで地域産材のを使う大切さをPRできました。



【木工教室支援の状況】

効果的な松くい被害対策の実施に関する支援

東部地方振興事務所登米地域事務所

【2日(木)】

登米市内の松くい被害対策の実施に必要な区域(地区保全森林)の設定について、登米市を支援しました。東和町森林組合の協力を得て、被害が目立つ場所の現地踏査を行い、被害範囲や当年度枯れの状態などを確認しました。また被害処理の方法や被害対策事業の開始時期について検討しました。引き続き、三陸沿岸道路周辺の松くい被害対策を進めていきます。



【被害対策、やるなら今でしょ!!】

林業体験学習（植林体験）

東部地方振興事務所登米地域事務所

【14日（火）】

津山町林業研究会が主催する林業体験学習（植林体験）に協力し、津山小学校の5年生を対象に、森林組合職員とともに苗木の植栽作業を支援しました。各児童は一人5本植栽することを目標に2人1組で協力しながら作業を行い、苗木を無事に植栽することができました。また、使用した少花粉スギコンテナ苗の特徴について、クイズを交えながら説明したところ、よく理解してもらうことができました。



【熱心に耳を傾ける津山小の皆さん】

気仙沼市産まつたけ 出荷前検査の実施

気仙沼地方振興事務所

【9月1日（金）～11月10日（金）】

気仙沼市で採取された野生まつたけの出荷前非破壊検査が10日（金）で終了しました。

なお、気仙沼市において、まつたけを出荷するためには、出荷前に非破壊検査機による全量検査が必要であり、検査の結果50Bq/kg以下の安全が担保されたもののみ出荷されています。

今年は夏の猛暑や、雨が少なかったことが原因で、例年よりもまつたけの発生が約1か月ほど遅れたものの、10月の中旬ごろから一気に発生し、最終的には出荷量の合計が約1.4トンとなり、当所は記録的な不作かとも危ぶまれましたが、最終的には「前年の4倍以上の大豊作」という結果になりました。

今後も市町村と協力のもとで、出荷制限の早期全面解除に向けて、引き続き取り組んでまいります。




【非破壊検査会場の様子】



【気仙沼市産まつたけ】



【まつたけのすき焼き】 

スマート林業・森林調査講座（実践・地上レーザ）の開催

林業技術総合センター

【15日(水), 16日(木)】

みやぎ森林・林業未来創造カレッジの主催により登米管内にて「スマート林業・森林調査講座（実践・地上レーザ）」を実施しました。株式会社アドイン研究所の方を講師に迎え、森林3次元計測システムOWLに関する講義及び皆伐予定地における現地実習をしました。

計測の仕組みや調査方法、計測データの見方や活用方法等を学ぶことができました。



【現地実習】

令和5年度宮城県林業普及活動・試験研究成果発表会

林業技術総合センター

【20日(月)】

当所研修棟において、感染症対策に留意の上、内外から52名の参加者を得て、標記発表会を開催しました。

うち林業普及活動成果発表会においては、競技形式で、関係する7地方公所から日頃の普及活動を発表し、内外審査員の審査で最優秀賞1名、優秀賞2名を決定しました。

入賞者には当所所長から賞状が授与されたほか、県林業普及指導職員協議会から副賞を授与しました。

今後も、各事務所研鑽の上、当県林業の推進に資することを期待します。



【成果発表会の様子】

令和5年度森林・山村多面的機能発揮 対策事業安全講習会

林業技術総合センター

【22日(水)】

9名の受講者を得て、宮城県森林・山村多面的機能発揮対策協議会が実施する安全講習の講師を行いました。

協議会から冊子「チェーンソーを用いた伐木作業安全マニュアル(厚労省他)」の配布があったので、本冊に沿って2時間の学科を実施した後、エンジン始動・チェンブレイキ活用方法・水平スリットへのガイドバーの出し入れ・右から左への水平切り・逆方向からの水平切り・斜め切りと水平切りの合わせ方実技を2時間実施しました。

短時間の講習ですから独習方法を示すに留めざるを得ず、自己研鑽に期待します。



【講義の様子】